

# 企業の大切なデータ資産の保護とコンプライアンス実現に向けたデータベース・セキュリティを提供するIPLocks

今日の企業にとって情報セキュリティに向けての取り組みは、単に自社のシステムやデータ資産を守るという目的ばかりではなく、去る2005年4月に施行された「個人情報保護法」や近い将来に施行が予定される「日本版SOX法」といった法制に対するコンプライアンスといった観点からも、いまや社会的な要請となっているといえる。アイピーロックス ジャパンの提供する「IPLocks」は、脆弱性評価と継続的監視、監査を通じて、今日の企業システム環境の中核を担うデータベースのセキュリティを強化するソリューションだ。



アイピーロックス ジャパン株式会社  
CTO兼セールス・コンサルティング本部長  
田中 昭道氏

## データベース・セキュリティ管理のサイクルを総合的にサポート

情報セキュリティ上の脅威が年々その深刻さを増しているなか、企業ではファイアウォールやIDS(侵入検知システム)をはじめとする機器やソリューションを導入することでその対策に注力している状況だ。これに対し「ネットワークセキュリティ対策だけでは内部者による不正行為を防ぐことはできません。重要なのは、企業にとってかけがえのないデータ資産を管理しているデータベースのセキュリティを意識した対策を施すことです」と指摘するのは、アイピーロックス ジャパン CTO兼セールス・コンサルティング本部長 田中 昭道氏だ。すなわち、データベースアクセスに関して、かかる

べきセキュリティ対策を施していない企業システムは、社内のデータベースへの不正情報操作には無防備であり、情報漏洩をはじめデータの改竄や破壊といったリスクに常にさらされていると言わねばならず、データベース・セキュリティの確立こそが、今日の企業にとって緊急の課題となっているのだ。「IPLocks」はまさに、こうした課題に対する効果的なソリューションを提供するものだ。

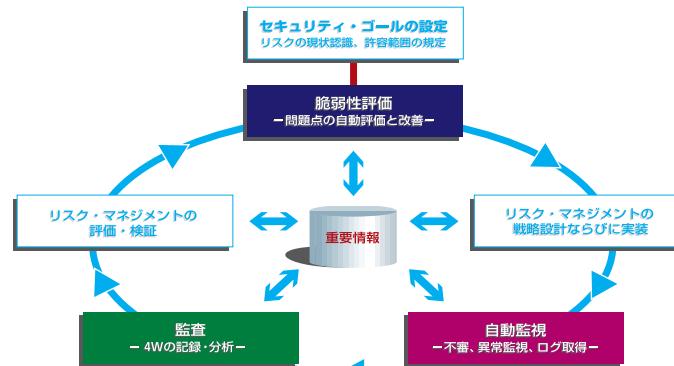
「IPLocks」は、『脆弱性評価』『監視』『監査・分析』というデータベース・セキュリティ管理の3原則を網羅し、そのサイクルを総合的にサポートするソリューションを提供しています」と、田中氏はその特長を端的に紹介する。IPLocksでは、データベースの脆弱性に関する自動評価・改善をはじめ、不審なア

クセや情報漏えい、構造や情報内容の破壊・改ざん、セキュリティポリシー違反などの監視・検出を行うとともに、ログの採取によって監査証跡を残すことが可能となっている。そして、問題が発生した際には、「誰が(Who)」「いつ(When)」「どこで(Where)」「何を(What)」の“4W”を分析し、速やかに管理者に対して報告する機能を備える。

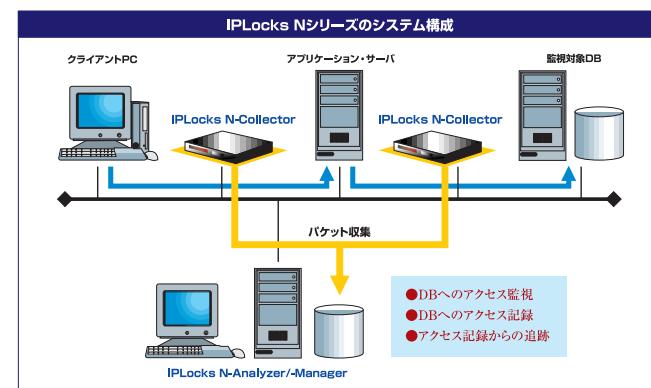
その仕組みを具体的に紹介すると、まず、データベースサーバにアクセス可能なネットワークにIPLocksサーバを接続することで、IPLocksの脆弱性評価機能を提供するVAモジュールがデータベース設定を確認、管理者の権限付与状況やパスワードの強度などの観点からデータベースの脆弱性を診断する。そしてリスクを把握した後、データベースのテーブル、権限設定、データ、ユーザーなどあらゆるオブジェクトに対して、監視ルールを指定することで、RDBMSが標準で装備している監査機能を利用して必要な監査ログを取得、分析するというかたちとなる。

対応するデータベースとしては、OracleやDB2、SQL Server、Sybase、Teradataといった主要データベースがカバーされており、これらのデータベースに対するアクセスを監視し、発行されるSQLコマンドやそれに対するデータベースからのレスポンスの捕捉が可能である。現在、最新バージョンとして「IPLocks V5.0」が提供されているが、このバージョンでは、Ora-

## データベース・セキュリティ・プロセス



図：「脆弱性評価」「監視」「監査・分析」というデータベース・セキュリティの3原則を網羅し、そのサイクルを総合的にサポートするソリューションを提供していることがIPLocksの最大の特長である。



に施行が予定される、いわゆる「日本版SOX法」といった法制への対応という観点とも密接なものだ。これらの法制に対するコンプライアンスを実現するうえで必要な、情報の改竄や漏洩発生の検知および

なることから、内部統制の前提となる各業務プロセスの流れの詳細な把握も可能になる。「内部統制管理の側面で効果を發揮する点は、IPLocksの大きなアドバンテージの1つなのです」と、田中氏は米国でのSOX法への関心の高さが、日本のユーザーにもメリットをもたらすことを強調する。

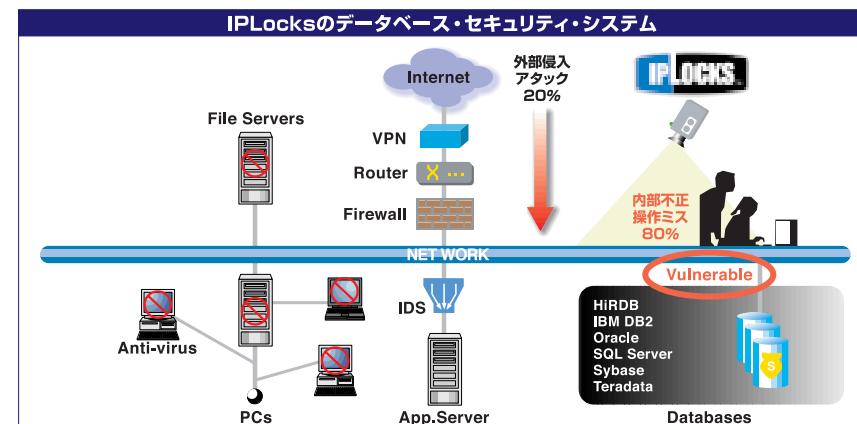
## データベースサーバへの負荷を回避するNシリーズも登場

すでに紹介した通りIPLocksでは、RDBMSが標準で装備している監査機能により監査ログを取得、分析するという方式がとられているが、データベースサーバの能力に余裕がなく、わずかでも監査ログ取得による性能低下が許容できないユーザーに向けた「IPLocks Nシリーズ」の提供も開始されている。この製品は、各データベ

ースサーバに至るネットワーク上に監視サーバを設置し、データベースサーバとクライアントの間で送受信されるパケットをキャプチャリングし、その内容の読み取りと解析を行って、不審な操作が行われている場合にアラートを発するというものだ。これにより、ユーザーIDやSQL文、データベースにアクセスしたアプリケーション名や検索されたデータ件数といった情報についての監査ログを、データベースサーバに負荷をかけることなく収集できる。

田中氏は「たとえば、日本版SOX法において義務づけられる報告書がどうしたもので、どのような項目を網羅すべきかはまだ決まっていませんが、その内容が明らかになればそれに対応したテンプレートを内蔵して、IPLocksの情報収集機能や監査機能とユーザーのレポート作成を連動させるという方向を目指していくことになります」と語る。事実、2002年よりSOX法が施行されている米国では、IPLocksは“SOX法対応セキュリティ製品”として広くユーザから関心を集めており、SOX法に準拠したレポート作成などの対応を進めている。

さらにIPLocksでは、既述の通り「誰が(Who)」「いつ(When)」「どこで(Where)」「何を(What)」の“4W”的監視が可能に



## アイピーロックス ジャパン株式会社

〒100-0011  
東京都千代田区内幸町1-1-1  
帝国ホテルタワー15F

T E L 03-3507-5805

U R L <http://www.iplocks.co.jp/>

e-mail [dbmag@iplocks.co.jp](mailto:dbmag@iplocks.co.jp)